

地域女性の歴史を

発掘しよう！

滋賀県立大学教授

京樂 真帆子さん



京樂 真帆子（きょうらく まほこ）さん

滋賀県立大学人間文化学部教授。京都大学文学部、京都大学大学院文学研究科博士課程修了。日本史研究者。平安京の都市社会史と、女性史・ジェンダー史を専門とする。滋賀県男女共同参画審議会委員・甲賀市男女共同参画審議会会長・長浜市男女共同参画を進めるパートナーシップ委員会委員長。滋賀県男女共同参画社会づくり副読本編集委員会顧問などをつとめてきた。近年は、滋賀県における国防婦人会の活動に関心をもち、史料収集と分析を重ねている。

令和元年8月、滋賀県立大学教授京樂真帆子さんが収集された近代女性史料を当センターにご寄贈いただきました。滋賀県立平和祈念館での展示や当センターでの展示により公開するだけでなく、研究等での活用のための貸し出しも行っています。今回、京樂真帆子教授に女性史を学ぶ意義について伺いました。

地域女性史研究の前には、二つの困難が立ちほだかる。

一つは、政治の中心地から離れた『地域』をフィールドとすること。これは、公式記録に歴史が残りにくい、という地域史研究に共通する課題である。そこで例えば自治体史の編纂時には、地域に残る史料の悉皆調査がなされるが、その中で、『女性』の歴史がどこ

まで自覚的に描かれるようになったのかは心許ない。

というのは、もう一つの困難があるからである。それは、長らく文字文化から隔てられ、自ら記録を残すことができなかった『女性』を対象とする、という点である。記録されなかった記憶は、時間と共に消えてしまう。地域女性の歴史を語るために必要な根拠、つまり残された史料は圧倒的に不足しているのである。

この二つの困難を打破するには、次の二つの方法がある。

一つは、少ないとはいえ女性が書いた文章や日記などをしっかりと蓄積すると共に、今を生きる人たちの記憶を私たちの手で記録しておくことである。地域で暮らす女性たちが語りつくす

史を「聞き書き」として書き留める。こうした方法でおよそ70〜80年前の歴史、2022年の今ならば、ぎりぎり戦前・戦中期の歴史を記録することが出来る、後世に役立つだろう。

滋賀県では、こうした「聞き書き」による地域女性史研究の成果がたくさん刊行されている。是非G-NETしがの図書・資料室でこれらの本を実際に手に取って、今も続けられている『歴史を紡ぐ』活動を応援していただきたい。とはいえ、この「聞き書き」の手法で過去を遡るには、おのずと限界がある。私は、大学で「祖母への聞き書き」をテーマとする授業を行っている。孫たちがその祖母にインタビューをし、ライフヒストリーとして記録する、という趣向である。20年前には、戦地からの引き

上げの苦労や、空襲被害、銃後活動の経験を詳しく語ってくれる祖母たちがいた。が、だんだんと「戦時中は幼かったので、おなかがすいて辛かったことしか覚えていない」といった語りになり、今では、そもそも戦後生まれの祖母が大多数を占めている。もちろん、戦後の高度成長期の女性の位置づけなど、新たに記録しておくべき女性の歴史は山のように存在する。が、例えば、あの戦争の時、女性は何を考えていたのかを知りたいと思った時にはどうすれば良いのだろうか。

そこで、困難突破にむけた二つ目の方法として、既存の史料の読み直し、という作業が浮上してくる。戦時期の女性については、国防婦人会の地域支部などの記録や機関紙の分析でこの課題に迫ることができよう。こうした方法は、古代や中世などの史料についても応用できる。

例えば、奈良時代の近江。奈良東大寺の正倉院に伝わる文書の中に天平20年(748)3月9日付けの「坂田郡

司解^{じのげ}がある。近江の坂田郡上丹郷^{かみひやまごう}(現在の米原市上丹生)の息長真人^{おきながまこと}真野売^{まのめ}という女性が、所有する二人の奴婢を東大寺に売却した証文で、東大寺と近江との関係を示す事例の一つである。これをジェンダーの視点で読み直すと、二つの要素が浮かび上がってくる。

①8世紀に自分の財産を所有する女性がいる、自分の名前ですべて売却して近江国の決裁を得るといふ自立的経済活動を行っていたこと。②その一方で、人身売買の対象となり、人権侵害を受けていた女性がいたこと。このように、たとえ既に活用されてきた史料でも、新たにジェンダーの視点で分析を加えると、地域女性史研究として展開させることができる。そもそも女性史研究自体が、こうやって分析を深めてきた歴史を持つからだ。

これは、地域女性史研究のための史料の発掘である。なにも、地面を掘り返すのではない。村の帳簿でも、新聞でも、読む時にジェンダーの視点を持てば良い。文字史料だけではなく、映画やレ

図書・資料室

G-NETしが図書・資料室では、京樂先生にご寄贈いただいた史料をはじめ女性史研究等に活用できる女性史料の閲覧ができます。



男女共同参画に関する図書や関連資料、DVDやビデオなど約6万冊の蔵書があり、貸出しをしています。レファレンスサービス、情報提供も充実しています。ぜひ、ご利用ください。

コードなどの映像資料や音声データも、地域女性史を語り始めるかもしれない。以前、県庁で議論をしていた時にどなたかの口から出てきた「そこに十(プラス)ジェンダー視点!」というフレーズは、地域女性史研究にもあてはまる。さあ、「そこに十(プラス)ジェンダー視点!」で史料を発掘して地域女性史研究を次のステップに進めよう。